

XVI. オーストリア共和国

<要約>

	概要	特徴
1. 市場環境の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○社会構造 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総人口：869 万人（世界第 90 位、2016 年 IMF 推計） ○経済環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人当たり GDP：44,561 ドル（世界第 15 位、2016 年 IMF 推計） ・ 実質 GDP 成長率：1.4%（2016 年 IMF 推計） ・ 1 ユーロ=123.4 円（2016 年 12 月末） 	
2. 金融制度の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○銀行等の業態分類（機関数、総資産、根拠法） <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式銀行・プライベートバンク（41、2,399 億ユーロ、オーストリア銀行法（以下、銀行法）） ・ 州不動産抵当銀行（10、582 億ユーロ、銀行法/不動産抵当銀行法） ・ 建築貸付組合（4、582 億ユーロ、銀行法/不動産抵当銀行法） ・ 特定目的銀行（74、706 億ユーロ、銀行法）外国銀行支店（31、157 億ユーロ、銀行法） ・ 貯蓄銀行（49、1,473 億ユーロ、銀行法/貯蓄銀行法） ・ フォルクスバンク（31、330 億ユーロ、銀行法/商工協同組合法） ・ ライファイゼンバンク（483、2,621 億ユーロ、銀行法/商工協同組合法） ○監督官庁 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総資産 300 億ユーロ以上など重要な銀行は欧州中央銀行（ECB）。それ以外の銀行については、独立行政機関のオーストリア金融市場機構と中央銀行のオーストリア国立銀行が ECB から権限を委譲されて監督。 ○預金保険制度 <ul style="list-style-type: none"> ・ あり（元利合計 10 万ユーロ上限）。銀行業態ごとに 5 つの預金保険機構が並立している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○銀行法ではユニバーサルバンキングサービスを認めているが、実際には業態ごとの住み分けがある。 ○協同組織金融機関のライフアイゼンバンクが機関数、総資産額、預金残高とも最大規模。 ○国際展開先としては、チェコ、ハンガリー等の中欧・南東欧諸国が多い。 ○ECB の直接監督対象となっているのは国内 8 行である（2016 年 11 月）。 ○2015 年に EU の制度に合わせ、前払制度が導入された。 ○預金保険制度は 2019 年以降、統一される予定である。

<p>3. 郵便貯金の概要</p>	<p>○郵便貯金制度・経営形態</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社形態のオーストリア労働・経済・郵便貯蓄銀行（BAWAG P.S.K.）がオーストリア・ポストと連携して、自行と郵便局で金融サービスを提供。 米投資会社サーベラス、ゴールドエンツリーが実質的な所有者。 <p>○郵便公社等との関係・拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> 1997年にオーストリア・ポストと郵便局における金融サービス提供継続に合意。2010年に提携を強化。 オーストリア・ポストとの共同店舗 481 支店（2015年9月末）、BAWAG P.S.K.の郵便局 2 局、オーストリア・ポストの 1,826 局でサービスを提供（2014年12月末）。 <p>○顧客基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> リテール部門顧客数（個人と中小企業）は約 170 万（2015年9月末）。 郵便局ネットワークにより、潜在的な顧客を引き付けることに成功している。 <p>○主な商品</p> <ul style="list-style-type: none"> 預金、貸付、送金・決済、保険・ファンド販売等様々な商品を提供。 	<ul style="list-style-type: none"> 2005年にオーストリア郵便貯蓄銀行と労働経済銀行とが合併して誕生。 2005年に破産したことで、株主が労働組合連合会から米投資会社になった。非上場である。 街中の小売店にも郵便局のフランチャイズ（1,306 局：2014年12月末）が設けられており、支払決済、預金の受払サービスを提供している。 他のリテール金融機関（貯蓄銀行、ライフアイゼンバンク）と比べ中欧・中東欧地域への展開に消極的で、顧客の大半は国内である。 デジタルチャネルの強化を図っており、100%子会社のネット銀行「easybank」は口座数 55.6 万（2015年12月末）。
<p>4. リテール金融機関の位置付け</p>	<p>○個人金融資産（2015年12月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> 総額 6,047 億ユーロ 現預金：40.3% 有価証券（株式・債券・投資信託）：36.2% 保険・年金準備金：20.7% <p>○与信機関による家計預金残高（2015年12月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> 総額：2,268 億ユーロ <p>○与信機関による家計貸出残高（2015年12月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> 総額：1,490 億ユーロ 	<ul style="list-style-type: none"> 現預金、有価証券投資がそれぞれ 40%近くを占める。 与信機関による家計預金残高では、定期預金が最も大きい。 与信機関による家計への貸出残高では、住宅ローンが最も大きい。

5. 最近の金融動向と今後の展望

<ul style="list-style-type: none"> ○マイクロファイナンス等 <ul style="list-style-type: none"> ・貯蓄銀行グループの「第二貯蓄銀行」が代表的存在。 ・BAWAG P.S.K.の企業融資部門も中小企業向け貸付・信用保証を提供 ○金融規制の動向と国内銀行の破綻処理 <ul style="list-style-type: none"> ・2015年、EUの定める単一銀行破綻処理制度を国内適用した。 ・協同組織金融機関フォルクスバンクの中央機関が解散し、新組織に機能を移管した（2015年5月）。 ○その他金融機関の動向 <ul style="list-style-type: none"> ・ライフアイゼンバンクの中央機関RZBが国際業務を行う子会社のRBIを統合することを決定した。 ○郵便貯金の動向 <ul style="list-style-type: none"> ・他行のリース会社・建築貸付組合の買収、子会社を通じた電力・ガス供給事業に参画し、事業基盤の多角化を行っている。 ・ダイレクトバンキング子会社「easybank」等を通じたデジタル化に積極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第二貯蓄銀行は期限付の預金口座、生命保険、デビットカード等を提供している。 ○世界金融危機・欧州債務危機後のEUでは、域内の金融規制の統合が図られている。2015年のEU指令施行により、金融市場機構（FMA）が国内金融機関の破綻処理権限を持つ。 ○RZBは非上場だが、統合した銀行は上場予定である。 ○2015年後半からビッグデータ解析に取り組み始めた。
---	---